

地域全体で見守り住民の健康を推進

少子高齢化や過疎化が進行するなか、高齢者の暮らしをサポートするニーズは年々増加し、サポートする人手不足が課題となっています。AIを利用した新しいサポートにより、住民が地域社会であんしんして暮らせる仕組みの実現をめざしています。

SOLUTION

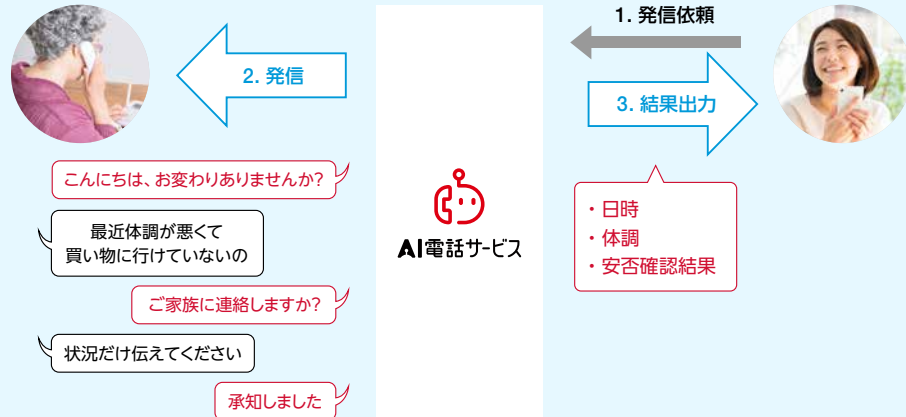
1. 地域社会をサポートする人手不足の解消
2. 地域住民の健康増進による住みよいまちづくり
3. 一人暮らしの高齢者を地域でサポートする体制の構築

SOLUTION 1,3 高齢者の健やかな暮らしをAIでサポート

AI電話サービス(みまもり電話)

ドコモは、従来の電話対応をAIが代わりにを行い業務負担を軽減する「AI電話サービス」を高齢者の見守りに活用する「みまもり電話」として提供しています。みまもり電話では、高齢者の固定電話などにAIが定期的に連絡し、会話の内容から安否や体調をチェックし、必要に応じて家族やケアスタッフに連絡します。2020年には奈良県と連携協定を結び、同サービスを活用した高齢者支援システムの実証実験を実施するなど、地域社会全体で高齢者を見守る仕組みとして、自治体での利用が広がっています。

みまもり電話の利用例



SOLUTION 2,3 地域住民の健康増進を後押しする

健康マイレージ

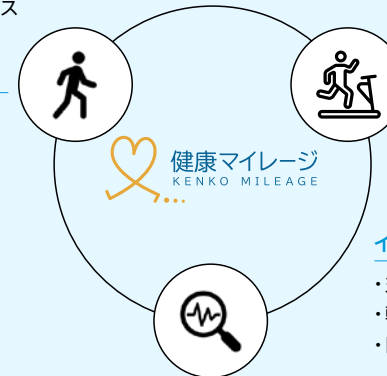
「健康マイレージ」とはスマホアプリや歩数計などを活用しウォーキングを通して健康増進をめざせるサービスで、自治体や企業が導入し、地域住民や従業員が利用しています。2022年9月には高齢者のフレイル*推定AIを用いた身体・認知機能チェックを行う機能を追加しました。高齢者のスマートフォンに蓄積された利用履歴や、位置情報、歩数や睡眠などの生活習慣情報からAIがフレイルリスクを予測し、利用者の健康マイレージアプリに通知されることで、自身のフレイルリスクに早期に気づくことができます。また、位置情報サービスの利用による平時の見守り、災害時の避難状況の確認を行える機能も加えるなど、住民をサポートする体制も整えています。

*加齢とともに心身の働きが弱くなった要介護の前段階を指します

健康マイレージの見守りサービス

ふだんの健康づくり

- ・ウォーキングポイント事業
- ・効果検証
- ・マイナンバーAPI連携*



ミライの健康

- ・体の健康
- ・心の健康
- ・食の健康

イマの見守り

- ・災害時の逃げ遅れ
- ・転倒と不安定な心拍
- ・日常の違和感検知

*マイナンバーで健診情報を取得